
ラーメン

いえやす

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラーメン

【Nコード】

N7625D

【作者名】

いえやす

【あらすじ】

おいしいラーメン屋さんがありました。近所の人々はみな常連です。

「いらっしゃませ」

「ああ、奥さん、こんにちは。」

昨日はどうしたの臨時休業なんかして」

「あ、ごめんなさい。ちょっと野暮用でね」

「急にだから心配しちゃったよ。じゃあいつもの。タンメンセツ
トで」

「ちょうど新作できたんですよ。試してみます？」

「ああ、じゃあそうしようかな。いくら？」

「500円です」

「ほう、安いね。」

ところでどう、旦那は？」

「それが全然。向こうの女のところにも行ったんですよ」

「そう、相変わらずだねえ」

「まあ、いい加減あたしも疲れましてね。
もう気にしないことにしました」

「もう悟りの境地ってどこかい」

「まだまだそこまではね。」

正直腸煮えくり返ってますけど、でももうあきらめました」

「恐いねえ。おとこの夜、また派手にやったんだって？」

『殺してやる！』とか聞こえたよ」

「ああ、ごめんなさい。お恥ずかしいわ」

「奥さんもすごいよねえ。あのごつい旦那相手に一步も引かないんだから」

「そんなことないですよ。身体を鍛えてたのは昔の話。」

今じゃただのデブなんだから。100キロもあるんですよ。」

そんな体重で動けるわけないんだから」

「旦那もいい加減落ち着きやいいのになあ。こんないい奥さんいるんだしねえ。」

ラーメンの腕だつて大したもんなんだから」

「まあ、それだけがとりえでしたからね。」

でもあの人も言ってますよ。」

『店が繁盛するのは、俺の腕じゃなくてお客さんのおかげだ。お客さんには感謝しろ』って」

「それなのに最近はずっと奥さんに店まかせつきりなのかい？」

「そのおかげであたしひとりでも店を回していけるようになったんだから。」

苦労はしてみるもんですよ。」

これからだって、一人でがんばらなきゃいけないしね」

「またすぐ帰ってくるさ」

「さあ、どうだか。今回はもう帰ってこないと思いますよ」

「どうしてそう思うんだい？」

「さあ、それはねえ……」。

はい、おまちどうさま」

「はい。いただきます。」

……あれ、奥さん、スープ変えた？」

「わかります？」

「いつもと違うのはわかるよ。」

うーん。この味は……」。

なんだろう？」

あれ？そういえば、奥にある大きな寸胴は？」

大きすぎるからっていつも使ってたやつじゃなかった？
ずっと火にかけてばなしじゃない？」

「え………？」

「奥さん、あんたまさか？」

「………」

「………」

「……………フフフ」

「……ハハハ、ごめん、ごめん、冗談だよ、冗談」

「フフフ……。当たり前ですよ。うちの人をスープにだなんてあんなデブ、スープにしたら油だらけになっちゃいますよ。うちはトンコツやってないんですから」

「ごめん、ごめん。ずいぶんあっさりしてるねえ、このスープ」

「魚介と野菜で仕上げたんですけど、どうです？」

「そうだよね、肉のしつこさがまったくないよね。」

「いやあ、おいしいと思うよ。このスープ。けどどうかな？」

「このラーメンだけだとあっさりすぎてちょっと物足りないかな？」

「

「ああそうそう。忘れてた。」

「そのラーメンには、これが付くんですよ」

「え、いいのかい。500円なんだろう？」

「ええ、お客様感謝セールをしようと思ってましてね」

「うーん。おいしい。」

「ボリュームもあるし。あっさり味のラーメンに合うねえ」

「そうですか？」

じつはこっちにあわせてスープをあっさりに作っただですよ」

「いいねえ、甘辛くて、とろとろで、超大盛り。
おいしいよこの『チャーシュー丼』。」

たっぷりの脂がご飯に染み込んで

ラーメンがあっさりしてるからしつこくならないし」

「よかった、しばらくこれ一本で行こうと思ってるんですよ」

「へえ、いつまでやるの」

「ええと、一人前200グラムで、……100キロだったから……」

「さてよ、骨とか捨てる部分もあるし……」

「どうかした？」

「いいえ。こっちの話。」

「ええと、300人分、400人分くらいかな。それが切れるまではやりますよ」

「へえ、大丈夫かい？ そんなにサービスして」

「ええ、今回は採算度外視。」

「……それに原価も掛かってないんでね。ああ、こっちの話です。
ほんと、お客様、様様ですからね。」

あの人もきつと喜んでくれますよ。

最後にお客さんに恩返しできたんだから」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7625d/>

ラーメン

2010年12月12日02時59分発行